



【概要説明】 平成29年度 大学教育再生加速プログラム 取組報告

人間科学部長・AP事業リーダー
上村 和美



平成26年度「大学教育再生加速プログラム」選定取組 大学教育再生加速プログラム

大学等名：関西国際大学
テーマ：テーマⅠ（アクティブ・ラーニング）・Ⅱ（学修成果の可視化）複合型

本事業は、インターンシップを糸口として、大学と産業界等との評価の観点と尺度の共有を具現化することを目的とし、産業界等での構成員（社員）評価と大学の評価との関連性や評価方法について、いくつかの事業所と連携してすり合わせていく。その結果を教育プログラムに反映させていくサイクルを繰り返すことで学修成果の可視化を進め、学生個人の自己評価能力の向上も目指すものである。
 <背景>大学の評価は産業界等には信頼されておらず、評価の観点と尺度とが共有されていないという問題がある。

関西国際大学 「大学教育再生加速プログラム」事業概要図

【事業の成果】

	25年度	27年度(目標値)	29年度(目標値)
アクティブ・ラーニングを受講する学生の割合	98.9%	99%以上	99%以上
学生の授業外学修時間	8.75時間	10時間	15時間
インターンシップ受入企業数	46社	60社	80社
インターンシップ・ルーブリックの作成と活用	実績なし	ルーブリックの作成 人間科学部での展開	全学的なルーブリック の提示・展開

<事業実施による大学改革の加速効果>
 ①大学での教育評価と産業界等の評価との不連続性の解消
 ②学生と就職先のマッチング精度の向上による離職率軽減
 ③産業界等の大学教育に対する正当評価等

<事業実施による大学全体への影響>
 本取組の成果を、対象学部以外である教育学部、

インターンシップルーブリックの構築

ベンチマーク	インターンシップルーブリック
自律性	能動性
規範遵守	規律性
社会的能動性	多様性理解
多様性理解	柔軟性
共感的態度	情報収集・活用力
知的好奇心	問題発見・解決力
情報収集・活用力	論理的思考/判断力
問題発見力	計画・実行力
論理的思考/判断力	自己表現力
自己表現力	意見交換・調整力
意見交換・調整力	
計画・実行力	

5

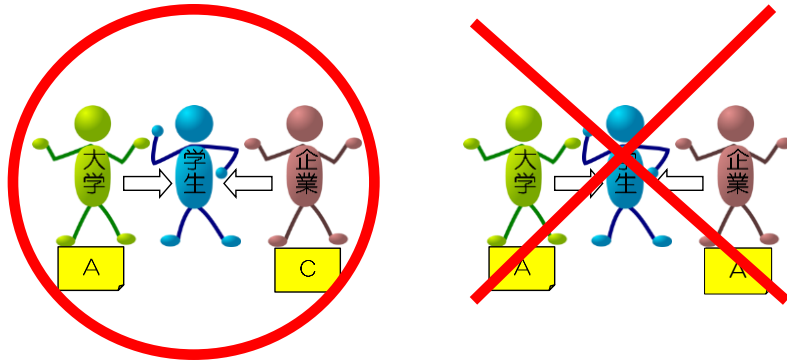
インターンシップルーブリックの構築

The image shows a screenshot of a rubric form titled "インターンシップルーブリック" (Internship Rubric) from "関西国際大学" (Kansai International University). The form is a grid with columns for "項目" (Item), "評価基準" (Evaluation Criteria), "評価" (Evaluation), and "コメント" (Comments). The "評価" column has a green background, and the "コメント" column has a yellow background. A blue callout box points to the "評価" column with the text "担当教員も明記" (Specify the responsible instructor). Another blue callout box points to the "コメント" column with the text "【コメント欄】を追加" (Add a comment column). A third blue callout box points to the bottom of the form with the text "具体的な手順を示す ※担当教員の関わりも記す" (Show specific procedures ※ Also record the involvement of the responsible instructor).

6

【定義③】

評価のカリブレーションのイメージ

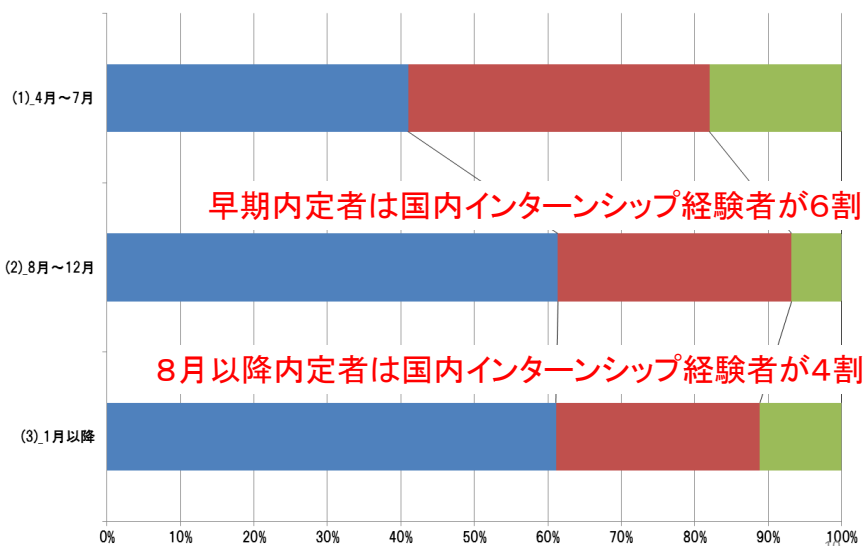


※カリブレーション＝評価のすり合わせでは、どちらかの評価に合わせるのではなく、評価の観点の相違を認め合うことである。

9

【効果①】 国内インターンシップと内定時期との関係

■ 経験なし ■ 1回経験した ■ 2回以上経験した

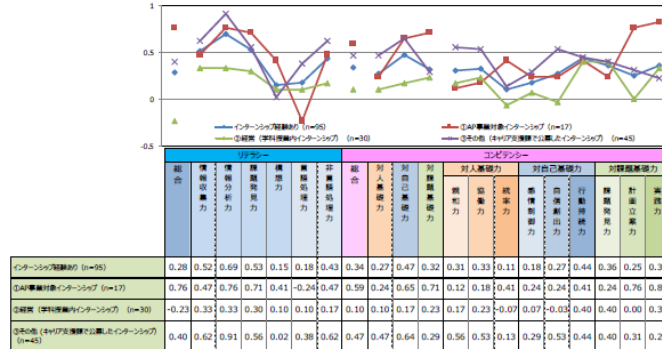


【効果②】PROGの分析結果

(2) インターンシップ種類別基礎力伸長比較

- リテラシー総合、コンピテンシー総合ともにAP事業対象インターンシップ参加学生の伸長がもっとも高く、経営(学科授業内)インターンシップ参加学生の伸長は低い。
- AP事業対象インターンシップ参加学生は、特に課題基礎力の計画立案力、実践力での伸長が大きく、経営(学科授業内)インターンシップ参加学生は、対人基礎力の統率力、對自己基礎力の自信創出力でわずかではあるがスコア低下がみられた。

■基礎力 今回と前回との差 <インターンシップ種類別>



11

2017年度の活動①

- 経営学科は、1年冬: 業界研究実習→2年夏インターンシップ→2年冬: グローバルスタディとオフキャンパスプログラムをカリキュラムの中に効果的に埋め込まれており、担当教員も積極的にコミットしている。
- 人間心理学科では、オフキャンパスプログラムの連続性が弱く、インターンシップについては担当教員のコミットが弱い。
→2017夏学期のインターンシップ事後学修を教員主導で全面的に見直した。

12

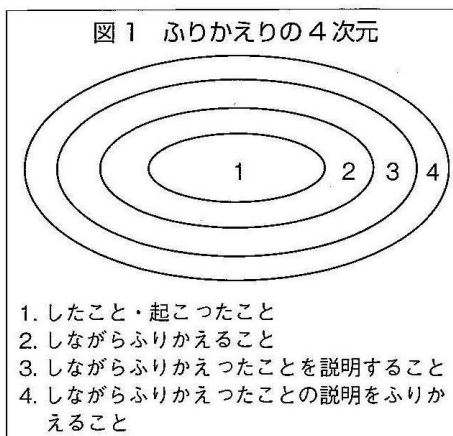
◆事後学修のねらい

ふりかえりの重要性

- インターンシップでの経験を今後の学生生活、就職活動につなぐ
- 本当の成長は、インターンシップ参加後、**通常の学生生活に戻ってから**である。
- インターンシップは、**成長の必要性**を再認識させる場・**成長のきっかけ**を提示してくれる場である。

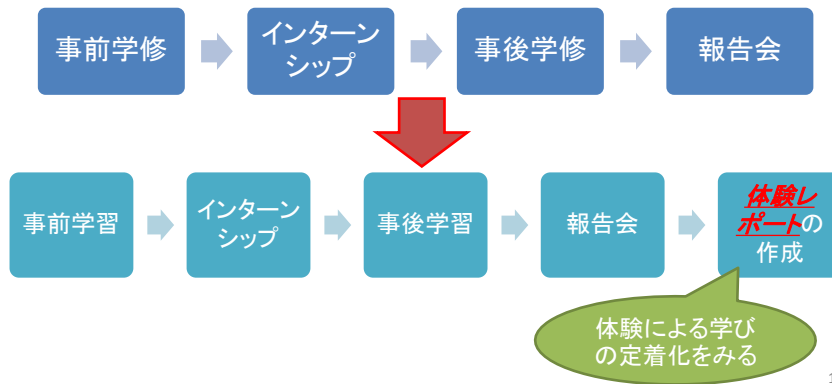
◆重層的なふりかえり

図1 ふりかえりの4次元



和栗百恵(2008)「体験的な学習とサービス・ラーニング」, pp50-53より

インターンシップ実施から評価までの ながれを再考



15

2017年度の活動②

- キャリアチューター制度をパイロット実施する: 能動性の実現、学生同士の学び合い
- 人間科学部のメインキャンパスの三木キャンパスキャリアサポート室で先行して実施する。
- ① インターンシップ経験者で、② 就職が早期に決定した学生2名をチューターとして養成する。
- 養成プログラムは、本学の学生メンターや学修支援チューターのプログラム内容を参考にする。
- キャリアセンター内も、チューターエリアの整備のためスペースをリニューアルする。

16

今後の推進予定

- 人間心理学科のインターンシップのフローを完成させ、学びの成果を定着させる。
- 参加者を増やす。=モチベーションのある学生を中心に勧める:ラーニングルートマップ(学びの計画書)の活用。
- APの成果を学内にフィードバックすることで、学内の学びのシステムに貢献する。